



吉田修先生とザンビアの子どもたち

■地域特集 徳島県—ボランティア

目指すは「持続可能な循環型社会」 仲間募集中です

吉田 修先生

さくら診療所 徳島県吉野川市山川町前川212-6



さくら診療所外観

アフリカの発展途上の国々と深い絆でつながっている小さな診療所が、吉野川市にある。「さくら診療所」理事長、吉田修先生は、徳島大学医局時代、青年海外協力隊に参加。初めてアフリカに行かれたのが、平成元年。三十歳のときだった。

「高校時代からそういう活動に興味があった、『いつかアフリカに行く』と宣言していたらしく、当時の友人たちからは『やっぱり行きよったなあ』と言われました」

初めての赴任先はアフリカ大陸南東部に位置するマラウイ共和国の国立病院。国内で三番目に大きい規模の病院にも関わらず、入院患者九〇〇人に対して医師は五人。

「ベッドも三〇〇しかない。ひとつのベッドに二人、あとは床にマットを敷いて横になっていました。ああ、国立病院なのにガーズがないときもありましたよ」

術後、あらわになったままの子どもの傷口にたかる蠅を母親がはらう、そんな光景を日常的に見てきた。「向こうで初めて手術したときに思ったことは、皮膚の色は違っても、中はまったく同じってこと」。そう静かに話すと、「当たり前なんだけどね」と付け加えられた。

規定の二年間の任務を終え、三十二歳で



現地の小学校 (Before)

帰国。医局に戻り、県内の病院に勤めるも、「日本では珍しくない何百万円もの高額医療に対し、向こうは百円、二百円で助かる命が助からない」。このギャップに「同じ命なのにと、気持ちの上で納得できなくなってしまう」。その後、国際医療ボランティア活動をするNPO法人「AMDA」を創設した医師、菅波茂先生を訪ね、岡山県へ。菅波内科医院の勤務医として、海外へ支援に飛ぶ生活が始まった。

「明日行つてと渡された札束を胸元に入れて出発する(笑)。でも、行くたびに欧米諸



現地の小学校 (After)

国とのNGO(非政府組織)予算の差に愕然としました。日本国内で頑張っていたAMDAですら数億。他国は百億超え。二桁違う。政府のメンタリティーの違いですね」と、少し歯がゆそう。それでも現地に入ればやることは山のようにある。内戦や紛争だけでなく、津波や地震など自然災害で傷ついた人々を支援してこられた。飢餓やHIVの問題も深刻だ。少しでも時間ができると「医療」から見捨てられたような村々の巡回診療も。あつという間に行列ができてという。

「薬を渡すことしか出来ず、今度いつ来られるのかもわからない。それまで生きていて欲しい、それだけを願いました」

先生が見せてくださった現地の画像には、干ばつで空になった食糧庫や、栄養失調で免疫力が低下、皮膚に穴が空いた子どもの痛々しい姿が写し出される。

「先日、世界の人口が七十億人を超えましたが、国連ではそのうち一割が飢餓状態にあるという統計を出しています。実は世界では七人に一人が飢えていて、病気になる死んでいく。医療に関わる者として、なんとかせにやいかんでしょうと思うわけです」

平成五年には「徳島で国際協力を考える会」を設立。これが先生が現在代表を務めるNPO法人「TICO」の前身となる。深く関われば関わるほど、「医療だけを持ち込んでいては根本的な解決にはならない」ことを実感。ザンビア共和国を活動の中心

に据え、栄養教室の開催や職業訓練、貧困層でも可能な有機農法の手ほどきなど、独自に多角的な支援を始められた。

もちろん、医療のフォローは最優先。妊産婦保健に関する健康教育を行い、自宅ではない「施設分娩」を推進し、安全な妊娠・出産を目指すプロジェクトでは、現在「お産を待つ家」を建設中。遠隔地からの妊婦を受け入れるそこは、「希望を待つ家」でもある。

そうした海外支援に携わる医療関係者の拠点として、また故郷の地域医療を支える場として、平成十一年に開設されたのが



底抜けに明るい子どもたちの笑顔に励まされる

「さくら診療所」だ。現在常勤は吉田先生と同じ志の渡部豪先生のお二人。診療所での仕事に主軸を置きながら、様子を見て交代で海外支援に行かれる。地域と密接に関わる診療所だからこそそのアットホームな雰囲気なのか、先生は「ここでできること」も常に考えられている。実は、「さくら診療所」は先生が究極として目指す「持続可能な循環型社会」の小さなモデル。太陽光発電やエコカー、薪ストーブの導入、生ゴミの堆肥化などなど。農業歴十年、「自称兼業農家」を名乗る先生がその堆肥を畑にまき、出来た野菜は入院患者やデイケアの食事に使われる。地域の人々への感化を期待しつつ、「この取り組みが地球規模になれば」と、ご自身の足下から実践を続けていらっしゃる。理想とされる「持続可能な循環型社会」と「環境問題」は密接な関係。先生いわく、「アフリカは地球温暖化の最前線」とも。



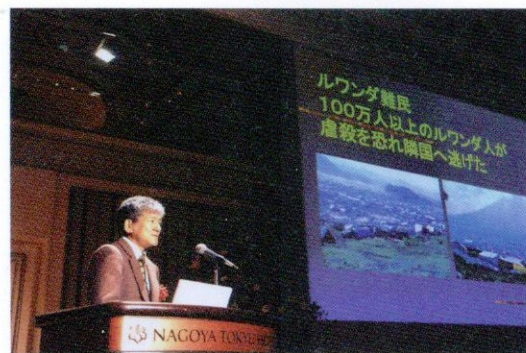
ザンビアの親子

「環境破壊がもたらす洪水や干ばつが繰り返されている地域。人類が将来経験するであろう悲惨なことを真つ先に経験している人たち。そういうふうに見えるなあ」

その原因のひとつに我々先進国の存在がある事実。「決して他人事ではないし、もっと問題を共有するべき」と、診療所開設前（平成九年）からTICCOが主催しているの



母子健診の様子



吉田先生の講演光景



毎月1回開催の「地球人カレッジ」は誰でも参加自由



さくら診療所の太陽光発電

が「地球人カレッジ」。国際協力、地球環境をテーマにした講演が、地域住民に向けて毎月開催されている。

「いま注目しているのが小水力発電。大きなダムではなく、中小の河川や用水路など、元からある水力を利用すれば、小さな水の落差でその地域分くらいをまかなえる電力が生み出せるのです」

日々の診察にTICOの活動と、実に忙しい。この日は車で二十分ほどの集落に、新たな夢の「下見」に行ってきたという。

「高齢化で空き家と荒れ畑ばかりになった集落にエコビレッジを作れないかなと思って。散策路を作ってメタボ対策、森林浴で心安らかに。畑で野菜も育ててね。いい循環を生む拠点にしたいんです。ここでの過

ごし方に共感する人が増えれば、それがいづれ世界を変えるきっかけにつながっていくんじゃないかなあ」

まずは故郷徳島に。できればいつかはザンビアにも。エコビレッジ構想はふくらむ。

最後に、一冊の写真集を見せてくださった。舞台はアフリカ。果てなき草原を進む動物の群れ、沈む夕日。「この風景を見ながら珈琲を飲みたいです。いいでしょ？一緒に行きませんか」と笑う姿は、実に満足そう。絶望感に苛まれることも多い。だが、「仲間は確実に増えているし、なによりアフリカの人たちは明るい！」と先生。「元気のいい若いお医者さんで、共感する人がいてくれたら、ぜひ徳島にきてください」。先生は同志の訪れを、さくら診療所で待っている。

COVERSYL

高血圧症治療剤(持続性組織ACE阻害剤)
処方せん医薬品® (薬価基準収載)

ペリンドプリルエルブミン錠

コバシル®錠 2mg 4mg

COVERSYL® Tablets

日本標準商品分類番号 872144 ※注意—医師等の処方せんにより使用すること

KYOWA KIRIN

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先)
協和発酵キリン株式会社
東京都千代田区大手町一丁目6番1号 〒100-8185
www.kksmile.com

提携

SERVIER
レ・ラボラトワール・セルヴィエ・フランス

2010年6月作成
®登録商標